

はじめに

海外技工問題シンポジウムの座長を務めさせていただき保団連理事の成田と申します

シンポジウムに先立ち海外技工問題のこれまでの経緯といった何が問われているのかという点について10分ほどで概要を述べさせていただきます

海外技工問題の経緯

海外技工はここ10年ほど前から裏に隠れて徐々に入ってきておりました

日本には歯科技工士法があり「歯科医師と歯科技工士以外は歯科技工を行ってはならない」という規定がありましたので、堂々とした宣伝もはばかれてきていました

(資料 歯科技工士法)

しかし厚労省が平成17年に「歯科医師の裁量で海外技工を行う」という事実上の海外技工解禁を公式に認めるという通達が出されますと事態は一変します(資料 17年通達)

これ以降、海外技工の宣伝が公然とされるようになり、実際の流入量も急速に拡大してきました(資料 保団連調査写真)(資料 宣伝物)

この事態に、保団連が歯科医師及び患者さん向けの全国調査を実施しその実態が初めて明らかになり、技工士・歯科医師・患者さんの関心が高くなり、国会での質疑やマスコミでも度々取り上げられることとなり、多くの自治体でも誓願が採択されるようになりました

(資料 採択自治体)

一方厚労省は終始この問題に対しては後ろ向きで、「現状調査さえしない」という立場で、事実上海外技工が野放し状態のままでしたが、このような世論が高まる中の重い腰をようやくあげ、第一次を実施しましたが、「海外技工は世界のトレンドだ」と立場を裏付けるためという非常に偏向した目的とずさんなもので「安全性に問題はない」「有害物質混入は根拠がない」と述べるに至っていました(資料 第一次調査 「指示とたびたびある」→「問題ない」)(「根拠がない」)

今年のTBS報道による中国技工物の中からのベリリウム混入報道は大きな反響を起し、厚労省の調査のずさんさと対応の問題が改めて問われることになりました(資料 報道)

その後の長妻大臣や厚労省は緊急に貴社棄権しましたが「トレーサビリティ」だけを問題解決とするというものです。

その後厚労省は第2次調査の結果を発表していますが、全世界で64個の技工物の分析をして有害物質が出ていないことに加えて、わざわざ「アメリカでの鉛騒動は事実無根である」ことを縷々述べて「海外技工物安全が確認できた」かの印象を強調するこれまた偏向した科学的とは言い難いもので、ベリリウム混入の事実を全く説明できないものです

海外技工問題の二つの視点

このような流れの中で今回のシンポジウムが行われる訳ですが、ここでは海外技工問題で今問われているものを大きく二つにあると考えます、一つは人体に装着される医療品としての歯科技工物の安全性の問題であり、一つには医療行為としての歯科技工の役割です

まず安全性の問題提起を行います

これは中国から宅急便で届く技工物の現物です。この材料に何が使われているのかは全く不明で実際に発注した北京の日本人歯科医師自らがこのようなメールをよこしています
(資料 現物 宅急便 メール)

この技工物をどのような資格の者がどのような場所で作っているのかは全く不明です
これらの発注は電話で一本で日本語で誰でもが可能で、もちろん歯科医師でなくてもかまいません

このような海外技工物が推定で毎月毎月数十万個が日本の患者さんの口の中にほとんど知らないうちに装着されているのです

中国上海の大規模ラボと中小技工ラボとの一例です (資料 写真)
このように何百人という規模で近代設備を誇るラボもあれば街の露天商のようなところで行っているラボもあり、この実数さえも把握されていません

どこからでも輸入が可能で全くフリーパスで宅急便で3日で届きます
「大規模ラボは設備も近代的で安全だ」というのが厚労省の見解であり、海外技工を推進する方々の論ですが果たしてそうでしょうか。「大企業であれば法的社会的規制なくしても自己管理できちんとした安全性は確保出来る」という幻想が裏切られてきた事実を私たちはいくつも経験してきたのではないのでしょうか

次に歯科医療としての歯科技工について問題提起をします
現在大量に流入しているノンクラスプデンチャーで最近私のところに来院した患者さんです (資料 写真)

「すごくよい義歯だと言われて高額のお金をかけて義歯をいれた。最初は見た目もよかったが、2年しか経たないのに土手は痛いし、前歯がグラグラして、ものが全くかめなくなってしまった」

この義歯は医療品としての要件や学術的な到達点を全く踏まえていません
歯科医師・歯科技工士の医学教育を受けていないものが素人考えで、「見た目がよくて柔らかい素材だからよいだろう」という発想で製品化し、また医学的知識のないものが何も考えずに製作したとしか言いようがありません

私の診療所の例ですが、日本での歯科医師と歯科技工士の事例です (資料 写真)

一つ一つが全てオーダーメイドで患者さんの口の中に調和し、いろいろな患者さんの要望や実情にあわせて作成しますし、最も重要なのがそのメンテナンスです

歯科技工は歯科医療の重要な一環であり医療そのものなのです
最近歯科雑誌に掲載された中国技工所との対談記事です (資料 アポロニア)

「歯科技工は製造業である」と言い切っていますがここも大きな論点となります
以上の重要な二つの視点でパネラーの方々から報告と問題的を行っていただきたいと思えます